●第 12 回世界冬の都市市長会議の開催について

平成 18 年１月に、第 12 回世界冬の都市市長会議が中国・長春市で開催されます。

同会議は、「冬は資源であり、財産である」というスローガンの下、気候・風土の似ている世界の北方地域の都市が集まり、共通する都市問題を話し合うことを目的に、昭和 56 年に本市が「北方都市会議」の開催を提唱したもので、翌 57 年には第１回会議が札幌市で開催されています。

その後、２年ごとに開催された市長会議を通じて、参加都市のネットワークが発展していきました。平成６年には会員制度を導入し、札幌市長が会長となり、会議の名称を「北方都市市長会議」とし、本市が事務局となっています。また、平成 16 年には、会員の対象を北方地域以外の都市にも拡大することとし、会議の名称を「世界冬の都市市長会議」に変更しています。現在では、11 か国 19 都市が会員となっています。

なお、今回の市長会議の併催事業として、「冬の見本市」および「冬の都市フォーラム」も開催されます。

１　開催期間

平成 18 年１月 15 日（日）～１月 18 日（水）４日間

２　開催市（会議主催都市）

中国・長春市

３　出席者

会員都市（11 か国 19 都市）および非会員都市の市長または代理、40 都市程度

４　会議全体テーマ

「冬における発展」（“ Grow in Winter ”）

５　市長会議協議テーマ

（1）冬季における環境問題について

（具体的論点の例）

・乗用車の急速な普及による環境問題、交通問題の解決について
・環境に配慮した暖房システムについて
・冬季における都市の緑化対策について

（2）冬季の市民生活における課題の克服について

（具体的論点の例）

・冬季の公共施設維持管理における民間団体、市民団体の参画について
・冬のオープンスペースの建設について
・冬季における食品の鮮度保持のための貯蔵および輸送について
・冬の観光資源の開発による都市の経済発展について

６　主な事業

（1）市長会議（１月 15 日～18 日、会場：長春シャングリラホテル）

□ 世界冬の都市市長会役員会・総会［役員会１月 15 日、総会１月 16 日］

世界冬の都市市長会の役員、予算・決算、事業計画および今後の運営課題などについて協議する。

□ 第14回世界冬の都市市長会議開催市の選考［1月16日］
　第14回会議の開催都市に立候補しているカナダ・プリンス・ジョージ市と中国・チチハル市がプレゼンテーションを行い、開催都市が選考される。
※　第13回会議は平成20年にグリーンランド・ヌークで開催。

□ 小委員会報告［1月16日］
　現在、市長会内に設置されている２つの小委員会から、その調査および研究成果について最終報告を行い、報告に基づいて市長間で意見交換を行う。
①　持続可能な冬の都市づくり小委員会（報告都市：青森市）
②　テロ対策小委員会（報告都市：米国・アンカレッジ市）

□ 市長会議［1月17日］
　「市長会議の協議テーマ」について、開催市からの基調報告や参加都市からの事例紹介に基づいて市長間で意見交換を行い、それぞれの都市の経験、知識を互いに学び合う。

□ 全体会議［1月18日］
　市長会議の協議結果を総括し、決議事項を確認する。

（2）冬の都市フォーラム（1月15日～17日、会場：長春シャングリラホテル）
　主催都市の長春市およびその他会員都市等から約30人の研究者・実務者が集まり、環境問題や冬のまちづくりに関連したテーマについて、それぞれ講演を行う。日本からは５人（足寄町１人、札幌市２人、青森市２人）が参加予定。

（3）冬の見本市（1月15日～16日、会場：長春欧亜売場）
　主催都市の長春市およびその他会員都市等から多数の企業・団体が参加し、展示ブースを通じて、冬の技術や情報を会議参加者および長春市民に対しＰＲする。日本からは24ブース（札幌市20ブース、青森市４ブース）に企業・団体が出展予定。

7　市長会議の特徴

（1）長春市の都市課題
　開催市の長春市では、急速な都市化が進む中国の都市課題である、環境問題、省エネ、都心交通、緑化対策等について、市長会議を通じて先進事例を学んでいくことを希望。また、冬季の公共オープンスペースの確保や観光誘致による経済振興など市民生活の向上にも強い関心を示している。

（2）本市の取り組み
　各プログラムを通じ、環境問題等の本市の取り組みを紹介するほか、北海道や海外の都市と連携し、先進事例を紹介する場を提供する。

【具体例】
- 木質ペレットなど木質バイオマスについて、北海道や先進国スウェーデンの取り組みを紹介する。
- 本市の冬の技術の紹介として、「外断熱住宅」、「省エネ型ガス床暖房」、「リサイクルシステム」などをテーマに本市企業・団体が出展するほか、冬の都市フォーラムに本市大学関係者が参加し、環境に関連したテーマで講演を行う。

問い合わせ先
総務局国際部交流課　電話２１１－２０３２

<u>世界冬の都市市長会の概要</u>

■ 設立目的及びこれまでの経緯

<u>１　設立の経緯</u>

“冬の都市”は、積雪寒冷の厳しい気象条件に適した“まちづくり”を行わなければならないという共通した課題を抱えています。「世界冬の都市市長会」は、“冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、気候・風土の似ている世界の北方の都市が集まり、共通する課題について話し合うことを目的に１９８１年に「北方都市会議」を札幌市が提唱したのが始まりです。

１９８２年には第１回北方都市会議が札幌で開催され、その後の継続的な開催を通じて、北方都市間に独自のネットワークに成長しました。１９８８年の第３回会議からは、経済界による「冬の見本市」、専門家や学術研究者による「冬の都市フォーラム」が併せて開催されるようになり、「北方都市会議」は、人、もの、技術、情報が行きかう北方圏における大規模コンベンションに発展しました。

このネットワークを更に強化し、北方圏全体の発展のために北方都市が連帯して行動すべく、１９９４年に会員制を導入し、恒常的な組織として「北方都市市長会」を設立し、会議の名称を「北方都市市長会議」に変更しました。

これまでの会議では、都市計画、冬の都市交通、除排雪、リサイクル、冬の観光資源開発などについて市長同士がそれぞれの都市の知恵と経験を共有し、まちづくりへのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。

また、２００２年からは、会員都市の実務者による「実務者会議」を毎年開催し、市長会議で議論するテーマや市長会の運営等について協議を行っています。

<u>２　「世界冬の都市市長会」への改編</u>

さらに、２００４年に米国・アンカレッジ市で開催された第１１回会議において、冬の課題を抱えるより多くの都市と“快適な冬のまちづくり”に関する課題について話し合うために、会員の対象範囲を北方地域以外の都市にも拡大することとし、会の名称を「世界冬の都市市長会」に変更しました。

なお、会長は設立当初から現在に至るまで札幌市長が務め、札幌市国際部に事務局が置かれています。

＊ 冬の都市とは・・・

積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市。

積雪の基準・・・１年間のうちで積雪量の最大値が概ね２０ｃｍ（８インチ）以上となること。

寒冷の基準・・・１年間のうちでもっとも寒い月の平均気温が概ね摂氏０度（華氏３２度）以下となること。

■ 会員都市　　１１か国１９都市（２００５年１２月現在）

国　名	都　　市　　名
カナダ	プリンス・ジョージ
中国	長春、ハルビン、ジャムス、吉林、鶏西、チチハル、瀋陽
エストニア	マールドゥ
グリーンランド	ヌーク
日本	青森、札幌
韓国	太白
リトアニア	カウナス
モンゴル	ウランバートル
ノルウェー	トロムソ
ロシア	ノボシビルスク、ユジノ・サハリンスク
米国	アンカレッジ

■ 過去の会議

会　　議　　名	開　催　市	期　　間	参加都市数
第 1 回北方都市会議	札幌	1982/ 2/ 7〜10	6 カ国 9 都市
第 2 回北方都市会議	瀋陽	1985/ 9/19〜22	6 カ国10 都市
第 3 回北方都市会議	エドモントン	1988/ 2/13〜15	12 カ国17 都市
第 4 回北方都市市長会議	トロムソ	1990/ 3/ 2〜 4	10 カ国20 都市
第 5 回北方都市市長会議	モントリオール	1992/ 1/17〜21	11 カ国34 都市
第 6 回北方都市市長会議	アンカレッジ	1994/ 3/ 5〜10	10 カ国30 都市
第 7 回北方都市市長会議	ウィニペグ	1996/ 2/ 9〜12	9 カ国33 都市
第 8 回北方都市市長会議	ハルビン	1998/ 1/15〜18	10 カ国49 都市
第 9 回北方都市市長会議	ルレオ/キルナ	2000/ 2/12〜16	10 カ国26 都市
第 10 回北方都市市長会議	青森	2002/ 2/ 7〜10	13 カ国 28 都市
第 11 回北方都市市長会議	アンカレッジ	2004/ 2/18〜22	11 カ国 27 都市
第 12 回世界冬の都市市長会議	長春	2006/ 1/15〜18	
第 13 回世界冬の都市市長会議	ヌーク	2008/	